

ルイス・キャロルと「不思議の国」

58期生

I テーマ設定の理由

私が幼い頃、ビデオで観たディズニーの「不思議の国のアリス」は、何だか意味の分からないお話でした。これは本当にそうだったのでしょうか。ふと、それを確かめたくなり、中一になって原作の文庫本を読みました。しかし、めちゃくちゃな登場人物や詩、コロコロと急に変わる場面…。それは中一になってもよく分からないお話でした。でもこの本を読んでいる最中は、いつも物語の世界に入り込んでしまい、アリスになったような気持ちにもなるのです。不思議の国で出会う登場人物や詩は疑問だらけだけどおもしろい！なぜ？こんな変てこなお話を書いたルイス・キャロルってどんな人？など知りたいことがたくさん。自由研究でとことん調べてみようと思い、このテーマにしました。

II 研究方法

1. 文庫本「不思議の国のアリス」「鏡の国のアリス」を読む。
2. ディズニー版「不思議の国のアリス」のDVDを観る。
3. 「不思議の国のアリス」のオリジナル原本「地下の国のアリス」（ルイス・キャロル直筆によるもの）を読む。
4. 研究書・関係図書で調べる。
5. 「アリスの国の不思議なお料理」より、実際に料理を作って食べてみる。

III 研究内容

1. 作者ルイス・キャロルについてー「不思議の国のアリス」の原点



写真1
ルイス・キャロル

- (1) 本名 チャールズ・ラトウィッジ・ドジスン
☆ 「ルイス・キャロル」というペンネームは、「チャールズ・ラトウィッジ」をラテン語化して、ひっくり返し、それをもう一度英語に直して作られた。
- (2) 聖職者であり、数学者、記号論理学者、アマチュアの写真家、絵画・音楽・演劇の愛好家であった。
- (3) 1832年 イングランド北西部、チェシャ州のダズベリーという小さな村の牧師館に生まれる。
- (4) 父は牧師。11人兄弟の3番目で長男。
☆ 2人の姉、3人の弟、5人の妹がいる。
キャロルはよく弟妹の面倒を見て遊んでいた。

- (5) 1844年 リッチモンド校に入学。この頃、「家族雑誌」を作り始める。
☆ パズルや物語の山に、きらめくような言葉の遊びが詰め込まれ、記事も挿絵も独力でやった。



図1

家族雑誌の中でも特に有名な「牧師館の雨傘」(1850年) (図1) 頭上に降り注ぐのは「悲しみ」「退屈」「憂鬱」「悪意」という石のつぶて。それを「TALES (物語)」「POETRY (詩)」「FUN (楽しみ)」「RIDDLES (なぞなぞ)」「JOKE (ジョーク)」と書いてある傘で防いでいる。牧師館がキャロルにとって、心安らぐ場所であったことが分かる。

- (6) 1851年 オックスフォード大学クライスト・チャーチ学寮に入学。
- (7) 1855年 数学の教師となる。

キャロルの自画像 (図2)

「私が授業をしているところ」

人さし指を立てて、計算の答えが1であることを教えている。かなりユーモラスだと思う。



図2

(8) 1862年7月



写真2

クライスト・チャーチ学寮長リデルの三人の娘たち (ロリーナ、アリス、イーディス) と「^{ゴールデンアフタヌーン}金色の午後」を過ごす。娘たちにお話をせがまれて、ポートをこぎながら即興でお話を作る。

☆ この時、10才のアリス・リデル (写真2 キャロルが撮影) が「わたしのために書いて下さい」とお願いし、キャロルが翌日から書き始めたのが「地下の国のアリス」(→「不思議の国のアリス」のもととなった。)

2. 「不思議の国のアリス」の誕生

- (1) もととなったのは、実在の少女アリス・リデルへのクリスマスプレゼントとしてキャロル自身が手書きで書いた (挿絵も) 「地下の国のアリス (Alice's Adventures Under Ground)」。
- (2) 1863年 雑誌「パンチ」で人気の挿絵画家ジョン・テニエルを紹介してもらい、「不思議の国のアリス」としてマクラミン社より出版が決まる。
- (3) 1865年 「不思議の国のアリス (Alice's Adventures in Wonderland)」出版。
- (4) 1865年の出版以来、現在では68の言語に翻訳されている。
- (5) 英米では、聖書とシェイクスピアに次いでよく読まれていると言われている。
- (6) 日本に入ってきたのは、「鏡の国のアリス」の方が先 (1899年…キャロルが亡くなった翌年)。「不思議の国のアリス」は、1908年に永代静雄によって紹介され、その後、西条八十、鈴木三重吉、菊池寛と芥川龍之介 (共訳)、三島由紀夫らが部分訳や全訳、翻案を紹介している。1933年版の「鏡の国のアリス」には棟方志功が挿絵

を描いている。



図3 ルイス・キャロルの絵と文



図4 ジョン・テニエルによる挿絵

3. アリスの国の不思議なお料理—そして「チェシャ猫」と「ネズミのしっぽ」

- (1) 「不思議の国のアリス」「鏡の国のアリス」共に、食べものや食べることに关する話が頻繁に出てくる。そのため「食物と食事」というモチーフがお話の主調音になっていると言われるが、アリスが飲んだり、食べたりすると、必ずその努力は最後の瞬間に邪魔されるか、あるいは美食の結果のような形で、ショックによる体の変化が表れる。

① 「DRINK ME (わたしをお飲み)」という札のついたびんの中味。



図5

〈原文〉 it had, in fact, a sort of mixed flavour of cherry-tart, custard, pine-apple, roast turkey, toffy, and hot buttered toast (実際、それはさくらんぼ入りタルト、カスタード、パイナップル、ローストターキー、タフィーに、あつあつのバターつきトーストがミックスしたような味だった。) →とてもおいしかったので飲み干した→望遠鏡のように体が縮み、背だけは十インチほどになった。(図5)

② 「EAT ME (わたしをお食べ)」と干しぶどうで書かれた小さなお菓子。

→本腰を入れて食べ出し、すぐに平らげてしまった。

→今度は体が世界一大きな望遠鏡のように伸びてしまった。(図6)

③ Mad Hatterの開くお茶会ではくだらない理屈の言い合いにより、アリスは飲んだり食べたりできずじまい (帽子屋は言った。「『食べものを見る』は『見るものを食べる』と同じだってこと」)。

☆ 評論家や精神分析医たちの考え…11人もの兄弟姉妹と共に過ごしたキャロル自身の幼年時代をいどったに違いない、競争意識によるものではないか?

(2) アリスが不思議の国で口にこれらの食べ物はどんな味がするのか? 「Alice's Cook Book ジョージ・フィッシャー著・開高道子訳」というレシピ本の中から、何とかおいし



図6

そうに思われた一品「チェシャ猫のひげ風チーズ棒」を作って食べてみることにした。



写真3

- ・材 料 チェダーチーズ…85g
小麦粉・パン粉・バター…各60g
ベーキングパウダー…小さじ1/2
塩・こしょう・パプリカ・牛乳
打ち粉用小麦粉
クッキングシート



写真4

- ・作り方 ① チェダーチーズをおろす。(写真3)
② 小麦粉、塩、こしょう、ベーキングパウダーをボールにふるい入れる。
③ ボールにパン粉を加える。
さらに、先におろしたチーズを加えて混ぜる。
④ バターを指先ですり込むようにして加え、なめらかになるまで生地をこねる。生地がパサついて扱いにくい時は牛乳少々を加える。(写真4)
⑤ こね板の上に粉をふり、④の生地を移し、ひとまとめにする。これを幅10cm、厚さ4.5mmに細長くのばす。
⑥ 生地を薄く短冊に切っていく。(写真5)
⑦ クッキングシートをしいた天板に生地を並べ、190℃(中温)に温めたオーブンに入れて焼く。うす茶色になり、カリカリになったら出す(10分位)。(写真6)
⑧ 熱いうちにパプリカをふりかける。(写真7)
⑨ 完成。



写真5

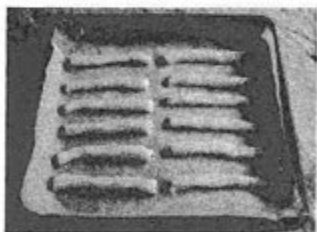


写真6

お皿に盛りつけ、カップに紅茶を注いで食べました。味は…スパイシ〜

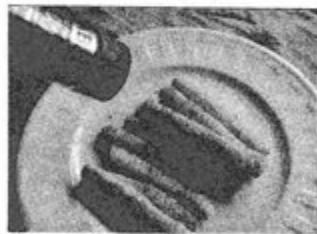


写真7

(3) チェシャ猫について

イギリスには、わけのわからない笑顔をかべることをさして「チェシャ猫のようにニヤニヤ笑う」という慣用語がある。では何故チェシャ州の猫は笑うのか?いくつかの説があるが、そのうちの猫とチーズが組み合わさった説を紹介。

- ① キャロルの生まれたチェシャ州は、昔からチーズ作りがさかんなところであった。猫というのはチーズが大好きで、チェシャ州の猫はいつでもチーズにありつくことができるため、ニヤニヤしてしまうという説。
- ② 昔、チェシャチーズは猫の形に作っていたことがあるという説。(チーズは、ネ



季節、昼夜に関係なく突然現れる。もちろん実体がある。体長は不明。初見の上の挿絵を見るかぎり、アリスと比べて、かなり大型のようだ。眼光は鋭いが常微活性をもつ。



季節に関係なく突然現れては、数分で消える。尾から後ろ足、体と徐じよに消えていき、頭部が最後になるのが、常のようだ。ただし、この時点では実体はなく、残像と考えるのが正しい。



屋外だけでなく室内の台所の隅とか、飼猫と同じような場所に現れることもある。出現場所から類推すると、どうも嫌光性あるいは猫科の夜行性質を受け継いでいるようだ。



頭部のみが実体化し、なおかつ巨大化することも可能なようだ。いい忘れたが、人語を解し、チェシャ(英語中部)訛りはなく、正確な英語をしゃべるようだ。知能も高そうだ。

ズミも大好物だから、猫の形で保存しておけば、怖がってネズミも近づけない?また、チェシャ猫が神出鬼没というのは、チーズボードにのせたチーズの猫を少しずつ切って食べていくと、しっぽの先から消え始め、やがてチーズボードの上に残っているのは、笑っている口元だけ。それも食べてなくなると、また新しいチーズがボードの上に現れる、ということかもしれない。

チェシャ猫はアリスの味方なのかどうかはよく分からないが、アリスのいい相談相手であるようだ。私はこの、喋ることも笑うこともできる魅力的なキャラクター、チェシャ猫が、物語の中で最もお気に入りだ。

(4) ネズミのしっぽについて

「不思議の国のアリス」にはこんな面白い部分がある。ネズミがアリスや動物たちに身の上話をする部分だ。

We live beneath the mat
Warm and snug and fat
But one way that
Was the cat!
To see just
a dog, in
our eyes a
fox, or, our
heads, a leg
Was the dog!
When the
cat's away,
Then
Do mice
will
play,
But, alas!
one day, (So they say)
Came the dog and
cat, hunting
for a
Crust
We mice
had just
had
so he set
himself to
eat us!

ネズミの長い話 (tale) が、アリスには長いしっぽ (tail) の形に聞こえたらしい。キャロル得意の洒落である。活字も、しっぽの形に組まれていておもしろい。

☆ tale (話) と tail (しっぽ) は同音 [teil]。



わたしたちはマットの下に住んでいた
暖く気持ちよく厚ぼつたい
でも鼠のクサネガツ
それはネコ
わたしたちの
鼻のじやま
目には鼠
のつかえ
それはイタ
マコガどこへ
行くか
ネズミたちは
遊ぶ
でも
ああ
ある日
(伝説さうだ)
イタとネコが
ネズミを
とりに
来た
一匹
鼠ら皆
バシヤンツに
行く
気持ち
よく
厚ぼつ
たい
でも鼠のクサネガツ

4. アリスを見つけるイギリスの旅

ルイス・キャロルやアリスゆかりの地を訪ねる旅をいつかしたい。そのほんの一部を紹介。



ルイス・キャロル生誕100年を記念して、1932年に生地ダースバリ村のオール・セイント・パトリック教会に作られたステンドグラスの部分。



クライスト・チャーチ学寮入り口にあるアリスも通ったお店



キャロル終えんの地ギルフォードのミルミードの広場にあるウサギの銅像



「Alice with her arms clasped lovingly round the soft neck of the Fanon...」アリスはいと好むように胸元を柔らかな襟の首にまわして眺め...



オックスフォードの鹿公園

IV まとめと感想

世界中の人々の胸をときめかせてきた物語「不思議の国のアリス」の始まりは、たった一人の少女のために作られた一冊の本でした。小さな子どもたちにお話をして喜ばせるのが好きだったキャロルの原点は、牧師館にありました。11人の子どもをかかえた生活は楽なものではなかったでしょう。そんな中で長男として弟や妹をはじめ家族全員を元気づけたいと、家族に読ませる雑誌を作って、途方もない作り話や言葉遊びを次々に生みだしました。私が初めて「アリス」を読んだ時と今では作品に対する思いは大きく変わりました。「意味不明なお話」は「最高のお話」となったのです。しかし原文でなければわからない面白さがあることも知りました。キャロルの言葉遊びには英米人さえ長い間気づかなかったものもあるそうです。「不思議の国」を通りすぎてしまう人もいでしょう。でも私はなかなか抜け出せそうにありません。最後に、私が「アリス」にひかれたもう一つの理由にジョン・テニエルの挿絵があることを再確認しました。

V 参考文献

- ・「不思議の国のアリス」の誕生 ステファニー・ストッフル／創元社
- ・不思議の国の「アリス」 舟崎克彦・笠井勝子／求龍堂
- ・不思議の国のアリス・オリジナル ルイス・キャロル／書籍情報社
- ・アリスの国の不思議なお料理 ジョン・フィッシャー／KKベストセラーズ
- ・不思議の国のアリス ルイス・キャロル／旺文社 などその他3冊